

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第1回 福津市立図書館協議会	
開催日時	令和5年7月5日(水) 午後2時30分から 午後4時10分まで	
開催場所	福津市立図書館 研修室2	
委員名	(1) 出席委員 安徳尊博、河井律子、小松益子、田島勝彦 立石たかね、藤吉有里、山口尚志 (2) 欠席委員 木庭竜之助、清水光朗、山元悦子	
所管課職員職氏名	城野(教育部長)、谷口(郷育推進課長)、溝辺(市立図書館長) 森(カリアステージ図書館長)、大村(市立図書館主幹兼図書サービス係長) 堤田(市立図書館サービス係長)、田原(カリアステージ図書館司書) 田中(市立図書館管理係長)	
会 議	議題(内容)	① 令和5年度図書館の運営方針及び事業計画について ② 令和4年度図書館の事業報告及び利用状況について ③ その他
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	0名
	資料の名称	・ 会議次第 ・ 令和5年度福津市立図書館協議会協議資料(運営方針・事業計画等) ・ 令和4年度福津市図書館年報 ・ 福津市公共図書館サービス区分別集計表 ・ 令和4年度福津市公共図書館活動報告一覧表 ・ 福津市公共図書館の図書館評価(評価項目・目標) ・ 令和4年度福津市立図書館利用に関するアンケート集計結果
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録 記録内容の確認方法 会議出席委員による確認 内容に相違ありません。 委員 小松 益子 ⑤	
その他の必要事項		

協 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会のあいさつ

2. 辞令交付

3. 部長あいさつ

4. 会長・職務代理者選出

会長は、委員からの推薦により河井委員に決定、職務代理者は会長の指名により山元委員に決定。

5. 自己紹介

6. 会長あいさつ

住民が一番拠り所になるのが図書館だと考えている。頼りがいのある存在としての図書館を目指して皆さまと協議をしながら努めていきたい。

※ここで部長退席

7. 協議事項

(田島委員) 配布資料に番号があったほうがわかりやすいと思う。

(事務局) 次回から番号を付する。

協議事項① 令和5年度図書館の運営方針及び事業計画について

(事務局) 資料「令和5年度福津市立図書館協議会協議資料」に沿って概要説明。

(藤吉委員) カメリアステージ図書館のイベント「初めての図書館」の募集定員と参加人数を教えてほしい。

(事務局) 募集定員は10名で、参加人数は8名である。

(山口委員) 市立図書館の11月の大人向け映画会はどういうものを予定しているか。

(事務局) 作品は決まっていないが、市立図書館所蔵の上映権処理済みの作品の中から紹介を兼ねて視聴覚室で上映する。詳細は市の広報誌や図書館のホームページ及び館内掲示でお知らせする。お知らせの時期は10月頃を予定している。

協議事項② 令和4年度図書館の事業報告及び利用状況について

(事務局) 資料「令和4年度福津市図書館年報」に沿って概要説明。

- (田島委員) 多くのイベントを開催しているが、何人くらいの体制で運営しているのか。
- (事務局) 市立図書館は市職員が5名、委託職員が13名、その他に設備スタッフと清掃スタッフがいる。1日あたり約10名で運営している。カメラアステージ図書館は10名の職員が交替で勤務している。
- (山口委員) 年報19ページの地域別利用状況を見ると利用の少ない地域がある。地理的なことが要因ではないかという説明だったが、移動図書館があれば利用が増えるのではないか。図書館から遠い地域の市民も公平にサービスを楽しむように利便性を向上させる必要があると考える。移動図書館についてどう考えているのかお尋ねしたい。
- (事務局) 上西郷、勝浦など図書館から離れた地域の利用促進については、地域にある自治公民館、小学校、郷づくり推進協議会とタイアップし、各地域の拠点に本を運んでいくことで利用しやすくするという方法が考えられる。今後研究していきたい。
- (河井委員) 移動図書館を運営するには多額の予算が必要だ。他の方法として、地域の拠点を作りそこに本を置き、時々入替を行いながらミニ図書館のようなものを作っている自治体もあるようだ。
- (藤吉委員) 年報12～13ページの分類別蔵書統計で、資料が減少している理由は、資料の劣化により廃棄したと考えたら良いか。
- (事務局) 資料管理規程により不要となった資料はリサイクルに供しその後廃棄している。市立図書館における資料数の減少は開架室・閉架書庫がともに満杯状態になっていたので適正に管理できるよう蔵書を減らしたためである。
- (藤吉委員) 電子図書館の利用についても年齢別や資料区分別の利用状況を出してもらいたい。電子図書館は利用者がまだ限られているのでその中で最大限に利用してもらうためには、まんべんなく資料を揃えるのではなく、今使おうとしている人たちに向けて充実させていくことが求められる。そのために利用状況を把握したほうが良い。
- (河井委員) 電子図書館の利用状況を出すことはシステムの可能なのか。

(事務局) 電子図書館は図書館システムとは連携していない。エクセルなどの表計算ソフトで作成できるか確認する。

現在、児童生徒数の増加により学校図書館を利用しにくい状況になっているので、小中学校をターゲットにしたいと考えている。

(河井委員) コロナで多くの図書館が電子図書館を導入したが、利用の多い年齢層に違いがあるなど利用状況には地域性があるようだ。タブレットを使って学校で集団読書ができるものもあるようだが、一般の電子書籍とは契約や金額に違いがある。そういったことも含めて、今後事務局に検討をお願いしたい。

協議事項③その他「福津市公共図書館の図書館評価」について

(事務局) 資料「福津市公共図書館評価(未定稿:抜粋)」及び「福津市公共図書館の図書館評価(評価項目・目標)」に沿って概要説明。

(河井委員) この評価はこれから作り上げて協議会に諮り、その後完成させたものを教育委員会に提出するという手順を踏む。図書館評価は、図書館法で定められているもので全国的に行われるようになっている。

(山口委員) 図書館の資料を破損したり返却しなかったりする人がいるというニュースを目にすることがある。返本率を評価基準にしなくて良いのか。

(事務局) 破損や紛失の場合は、弁償基準に沿って弁償してもらうなどの対応を行っている。返本率を評価基準にするかどうかは今後検討する。

8. 次回の日程について

(事務局) 第2回は、11月に先進地視察等を予定している。先進地視察等を行わない場合または協議等が必要ない場合には、2月開催予定の協議会を第2回とする。

以上。